

# NATVA PRESS

## ホーム・ページの内容充実にご協力を!

「NATVA PRESS」及びホームページのコンテンツ(内容)を充実させ、全国の方々に、北海道の会員情報を発信して、NATVAの活動をより市民権が得られるよう努力したいと考えています。メールでもFAXでもかまいません。あるいは、こんなコーナーを作ったとしてもかまいませんので、皆さんもご協力を!事務局までFAX・メールでお寄せ下さい。(連絡先は4面にあります)

## 目次:

第10回通常総会の報告	1
今、思うこと 勝見昭二	2
自分の感受性くらい 太田晃正	3
お知らせ ほか	4

## 「第10回北劇空間映像美術協会総会」通常総会報告

去る4月28日(月)17時より北海道厚生年金会館8F「グランシャトー」にて「第10回北劇空間映像美術協会通常総会」が開催されました。

開会の辞に引き続き、新村会長より「この2~3年、我々を取り巻く状況は非常に厳しくなっていますが、生活面、仕事面、肉体面でも精神的にもしっかり自立できる環境づくりに、NATVAが少しでも役に立てたらと思っています。

「文化の育たない国は滅びる」という言葉がありますが、ここは皆さんの意見やアイデア、そして直感力を大いに出していただき創造集団としての役割を發揮していただきたい。

一步でも我々の文化芸術活動が社会に認知されるよう、事業活動を展開したいと思っていますが、会員の年会費のみで事業を展開するには無理があります。会員の方々の創意と知恵を出し合い、事業計画・展開を進めていきたいので、活発なご意見、アイデアを積極的に出して下さい。」との挨拶があり、議長として鶴飼会員を選出。

総会設立宣言(会員総数 54名/出席17名・委任状32名で過半数に達している)の後、各議案について討議されました。

### 第1号議案:平成19年度事業報告(事務局より)

- ・コア・メンバー会議
- ・舞台関連3団体の事務局長会議
- ・「NATVA PRESS」の発行
- ・「サミット薪能」の詳細

特に「サミット薪能」に関しては、本年度のメイン事業となるべく新村会長を中心に進められていましたが、3月に外務省より諸般の事情により中止が伝えられ、とても残念なことになりました。

・ホームページのリニューアルに取り組んでいます。(詳細 4P参照)

### 第2号議案:平成19年一般化会計決算報告(事務局より)

- ・かねてより請求していましたが、滞納者の14名については退会扱いとしました。
- ・決算報告書の監査・承認(大野監査役より)

### 第3号議案:平成20年度事業計画案について(事務局より)

- ・11月に釧路で「NATVA舞台美術展」を開催予定ほか。
- ・リニューアルするホーム・ページを活用し、会員同士のコミュニケーションを図る。

### 第4号議案:平成20年度一般会計予算案(事務局より)

### 第5号議案:その他

- ・役員改選について(会長・事務局長とも留任)より、参加しやすく、参加していることに意味がある組織づくりを目指していく。
- ・コア・メンバーについてより、積極的に活動していくため、地域の方を増やして、提案型の組織づくりをしていく方針。(詳細 総会報告書)

などを、承認可決して終了。そのご、懇親会を開催して交流を深めました。(総会報告資料は別紙)



## 「照明家協会理事を退任して、今、思うこと」 勝見昭二

去る3月、8期16年間務めた「日本照明家協会」の理事を卒業しました。東京から北海道厚生年金会館に着任した太田晃正氏から、協会のお話を聞いたのがキッカケで会員になりました。（推薦人は太田氏でした。）

その頃、札幌を中心に「北海道舞台テレビ照明協会」があったのですが、「日本照明家協会」との合併話が持ち上がった時期で、武内昭二氏（当時支部長、現名誉支部長）と太田氏と三人で、名古屋で開催された総会に出席して北海道の現状を説明。

昭和55年（1980年）に「日本照明家協会」と合併し支部となり、あれから北海道支部も28年が経ちました。

「日本照明家協会」の中でも、東京〔東京支部〕、大阪〔関西支部〕、名古屋〔中部支部〕の三協会が組織統合してからは、北海道が支部としては第1号でした。

その後、東北支部、中国支部、四国支部、九州支部、沖縄支部ができて、本部、支部を抱える全国組織となり、今年で法人認可35周年を迎えています。

北海道支部は初代支部長に武内昭二が就任し、当時は理事も兼任されていました。二代目理事は太田氏、三代目（何か、ヤクザの組織みたいですが）には私が就任しましたが、最初の理事会などは、皆さんが雲の上の人で、とても質問などできる状態ではありませんでした。

また、最初の頃は、公共施設職員という公務員の立場だったので、理事の仕事としては余りできなかった。

東京での理事会開催では、仕事の関係上、日帰りの時もあり、また冬の季節は一泊して札幌に朝帰りし、その足で札幌にはなかなか来られない道南、道東、道北と回って各地域の協会員と交流して、会員を増やしてきました。

長い間理事を務めていると、会長も本部役員もたくさん代わっていききました。

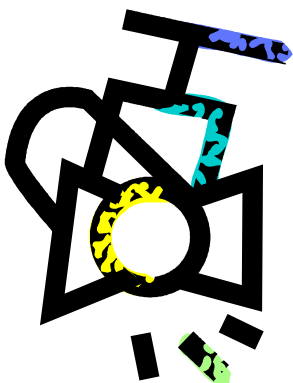
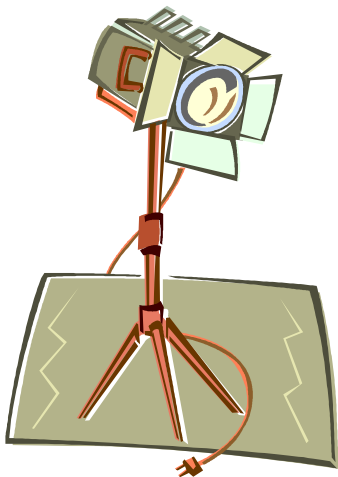
小川会長、松崎会長、大庭会長、相馬会長、吉井会長、谷川会長と時代の流れを感じずにいられません。

また、大先輩でもある、本部役員でもあった辻本氏、中国支部元理事の大賀氏、そして元副会長の丸岡氏もお亡くなりになってしまい、寂しい限りです。

最後になりましたが、長い間理事を務められたのも、名誉支部長の武内氏、元支部長の佐藤氏、現支部長の大野氏、そして東京に顔が広がった二代目理事、太田氏のバックアップと北海道支部の会員の皆さまのおかげと、深く感謝いたします。

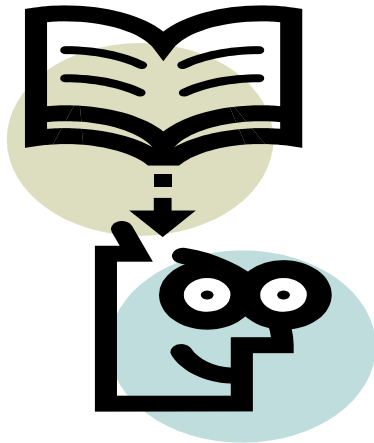
私に代わって四代目理事は、プラスワンステージの鶴飼氏が就任いたしました。

理事を卒業しましたが、まだ協会員ですので、これからもよろしく。



## 「自分の感受性くらい」を読みながら 太田晃正

あふれんばかりの情報と、複雑化する時代に流されることなく、本当の自分自身の「感性」を大切に！と強力なメッセージを送る一遍の詩を最近、繰り返し読んでいます。  
とにかく、うまくいかないことや、いらいらすることが多い昨今。その原因を周囲のものの責任にしたり、環境のせいにしてきたりすることが、我々にはどんなにたくさんあることでしょう。  
でも、それは、見苦しいだけでなく、自分自身の弱さであり、墮落でさえもあるのです。  
そういう、自分がうまくいかないことを他者や環境の責任にするというのは「わずかに光る尊厳の放棄」だと指摘しています。  
もっと自分で感じ取れ、感じたことを大切にしろ、自分の頭で考えると、この詩は訴えています。



「自分の感受性くらい」 茨木 のり子 (1977年)

ばさばさにかわいていく心を  
ひとのせいにはするな  
みずから水やりを怠っておいて

気難しくなってきたのを  
友人のせいにはするな  
しなやかさを失ったのはどちらなのか

苛立つのを  
近親のせいにはするな  
何もかもへたくそだったのはわたくし

初心消えかかるのを  
暮らしのせいにはするな  
そもそもが ひよわな志にすぎなかった

駄目なことの一切を  
時代のせいにはするな  
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい  
自分で守れ  
ばかものよ

茨木 のり子(いばらぎ のりこ)  
1926年大阪生まれ。2006年  
2月没。  
戦後、帝国劇場で上演されていた  
「真夏の夜の夢」を観て、劇作家を  
志し「読売新聞第1回戯曲募集」で  
佳作に入賞。  
1953年同人誌『權』創刊し、戦  
後詩を牽引した日本を代表する女性  
詩人にして童話作家、エッセイ  
スト、脚本家。  
その詩は中学・高校の教科書に多く  
取り上げられている。

ホームページをリニューアル！ <http://www.natva.com>

大変お待たせ致しました。かねてより計画されていましたが、ホームページのリニューアルが、ようやくオープンできることになりました。思考錯誤とWebデザイナーとのやりとりに時間がかかってしまい、遅れてしまいました。

会員同士のコミュニケーション、そして多くの方々に、文化芸術、舞台に興味を持っていただくため、大いに活用してもらいたいと願います。

工事中が多くて、まだまだ計画の25%ぐらいですが、とりあえずアップしますので、コア・メンバーばかりでなく、皆さまからの原稿や写真、あるいはコンテンツ案をどしどしお寄せください。

尚、しばらくの間、ブログを除く原稿類、写真などは、事務局の森あてにメールを送ってください。

メル・アド：office-m@ecnt.net

緊急募集：「だれでもできる大道具の作り方」「合唱を上手く録音する方法」「カラオケが上手く聞こえる裏ワザ」「舞台監督の仕事」など、高校演劇や少しでも舞台に興味を持つ方たちが「NATVA」というところが、面白いよ！結構、役にたつよ！と言われるように広げていきたいと思っています。

また、コンサートやイベント情報はもとより、グルメ情報、ちょっといい話、お役立ち情報、どしどし送ってください。

勿論、コンテンツ案も大いに歓迎いたします！

データを送ってください。！！！！

## 今号の一冊「北海道演劇1945-2000」鈴木喜三夫



【発行：北海道新聞社 2500円】

東京での生活に終止符を打ち、札幌に戻った鈴木さんが、「専門劇団さっぽろ」を創設したのは、1959年（昭和34年）、28歳の時。以来、「演劇」ひとすじ、多くの芝居の演出、劇作に関わり、間もなく50年を迎え、北海道に「この人あり」という感じ。その鈴木さんが「ライフワーク」とも言っていた350ページにわたる労作です。戦後すぐから年代別に、地域や分野、公演別に、幅広く「北海道演劇」に関わってきた人々の動向を、豊富な資料とともに紹介。

特にあまり論じられることのなかった「人形劇」や、これまでの演劇史ではほとんどとりあげられなかったGHQ（連合軍総司令部）が行った「検閲」についても詳しい。民主主義の時代になったのに高校の演劇部までチェックしていたGHQの情報収集のすさまじさには驚く。

北海道（道立）劇場の計画は凍結されたまま、未だに市民権を得ていると言えない「演劇」が21世紀にという時代に、どう私たちの手にとりもどせるか？著者の熱い思いに答えていきたい。

北劇空間映像美術協会  
NATVA  
北劇空間映像美術協会

〒005-0012

札幌市南区真駒内上町2丁目11-6

時円プランニング内

電話 011-581-1300

FAX 011-581-1302

各地域での活動、文化・舞台・音楽などの公演スケジュールなどをお寄せ下さい。

## Information

「NATVA 舞台美術展」

総会でもお知らせしておりますが、11月5日（水）～10日（月）まで釧路市民文化会館にて開催される「高文連・高校演劇全道大会」において、舞台美術展を計画中です。過去に札幌・旭川・函館などで開催していますが、「NATVA」そのものを、そしてより舞台芸術に関してアピールする絶好の機会となります。模型・エレベーション、写真など、プランのみで実現しなかったものでも良いので、是非、皆様のご協力をお願いします。

この件についての担当は、北海道厚生年金会館の湯上会員となります。

〔コア・メンバーの皆さまに〕

以下の日程でレギュラー会議を開催いたしますので、スケジュール表に記入して調整してください。

8月18日（月）

10月20日（月）

12月15日（月）

会場：北海道厚生年金会館

1F [デュエット] (喫茶)

時間：10:30～12:00

地方の方は、交通費として片道分を負担いたします。ご協力を。

第 六 感

“共感” “体感” を私たちと創りませんか！

<http://www.natava.com>

E-mail:office-m.ecnt.net(仮です)